

（中村奈都子の消費を斬る） ファンケル、月4万円ドッグフード 「病弱の1頭のため」新市場に

2023/2/22付 | 日経MJ

ファンケルが1日に発売したドッグフード「GOODISH（グーディッシュ）」が話題を集めている。価格は月額換算で4万円超と平均の10倍以上。良質なたんぱく質や食物繊維のほか、一体、何が詰め込まれているのか。

ペットフード開発部の船山尚子部長は、群馬工場の工場長だった2016年に6頭目となる愛犬ランを生後数カ月で迎え入れた。ところが体が弱く、アレルギー体質で皮膚が荒れやすい。チーズを食べてアナフィラキシーショックを起こしたこともある。ペット用の療法食や薬、スキンケアを試したものの体調はなかなか改善しない。

ランにとって本当に必要な栄養とは何か。調べていくと、良質なたんぱく質を摂りつつ腸内環境を整えるのが大切だということがわかってきた。獣医師と相談しながら鶏や鹿などを少しずつ食べさせ、ランにとって良いたんぱく質を探っていった。

ペットフードについても調べた。安価な商品を大量に安定的に供給しようとするれば、使用する素材や製法は限定的になる。ランにとって最適なドッグフード探しは2年近くに及んだ。

18年に参加した社内の幹部研修「池森経営塾」では新規のビジネスアイデアを求められ、迷わず「ペットファーストのドッグフード」を提案。開発にゴーサインが出た。

このほど発売した商品「グーディッシュ」は鹿、鶏、馬、魚の4種類で肉は低温で加熱。栄養成分を損なわないようフリーズドライ製法とした。創業者の池森賢二氏から「愛犬のことだけを考えて作るように」とのアドバイスを受け、ランにとってベストな食に仕上がった。体調は回復し毛のツヤも驚くほど良くなったという。

社員が飼っている70頭以上の犬でモニター調査すると、8割がいつものドッグフードよりグーディッシュを先に食べ、9割以上が完食したという。



ペットフード協会によれば主食用ドッグフードの費用は月平均3600円程度だ。これに対しグーディッシュは1箱30袋入りで販売価格は1万4300円と1万6500円。1箱は3キロの犬で約10日分の食事量なので、全てを切り替えると月額4万円を超える。

池森氏は、妻の化粧品による肌荒れを解消するために無添加化粧品を開発した。今も不安や不満など世の中にある「不」の解消を経営理念に掲げる。当初は肌トラブルを抱えた一部の人のものと思われたが、今や「無添加」は多くの人に支持されている。1人（1頭）のためのモノ作りが大きな市場を作り出す可能性は十分にある。

船山部長は「犬の約2割はなんらかの皮膚疾患を持っており、医療費も安くない。食事を見直すことで1頭でも多くのワンちゃんが元気になったらうれしい」と話す。商品には犬への無限の愛が詰まっている。

（編集委員）

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

NIKKEI Nikkei Inc. No reproduction without permission.